

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-155	A-132	17-047
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Sleep Problems in Relation to Smoking and Alcohol Use in Chinese Adolescents. 中国の思春期の若者における飲酒および喫煙と睡眠障害の関連について		
<b>執筆者</b>		
Chen H, Bo QG, Jia CX, Liu X.		
<b>掲載誌</b>		
J Nerv Ment Dis. 2017 May;205(5):353-360. doi: 10.1097/NMD.0000000000000661.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
喫煙、飲酒、睡眠時間、不眠症、思春期		28181924
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 思春期は多面的に心身の成長を伴う重要な時期である。一方、中国では飲酒および喫煙問題は未だ公衆衛生的に大きな問題となっている。睡眠時間や質の低下は思春期の若者の飲酒、喫煙率の上昇と関連していると仮説を立て、これを検証した。		
<b>方法：</b> 中国東部の山東省の利津県で 2,090 人の思春期の若者を対象に研究を行った。これは、思春期の若者のメンタルヘルスに関する 2007 年の研究の一部である。3 つの高校から対象者が選ばれ、健康状態に関する質問紙表への自己申告形式で調査を行い、統計解析はロジスティック回帰分析を行い、睡眠障害の喫煙および飲酒習慣に対するオッズ比(OR)と 95%信頼区間(95%CI)を算出した。		
<b>結果：</b> 男女比はほぼ 1:1、平均年齢は 7 年生から 12 年生で 12-17 歳であった。 人口統計学的差異や内的小および外的要因を調整した結果、睡眠の質の低下は喫煙率上昇(odds ratio[OR], 2.59; 95% confidence interval[CI],1.24-5.40)、飲酒率上昇(OR, 2.65; 95%CI, 2.81-3.89)、酔っぱらう機会の上昇(OR, 2.81; 95%CI, 1.72-4.57)と関連していた。平日の睡眠 7 時間および、平日の睡眠 6 時間以下は飲酒率上昇とそれぞれ有意に関連していた(OR, 1.64; 95%CI, 1.20-2.43) (OR, 1.97; 95%CI, 1.25-3.10)。平日の睡眠 6 時間以下は酔っぱらう機会の上昇と有意に関連していた(OR, 2.09; 95%CI, 1.18-3.70)。睡眠導入剤の使用は過去の喫煙歴と有意に関連していた(OR, 1.80; 95%CI, 1.08-2.99)。		
<b>結論：</b> これらの結果は、睡眠への介入が思春期の若者の薬物 (アルコールおよびタバコ) 乱用に歯止めをかける潜在的な能力があることを示唆していると考えられる。		